毎日新聞 昭和61年12月28日(日曜日)

インタビュー

今年、そして来年は？

激しい年から難しい年へ

占いの玉手箱
竹村亜希子さん(37)

——今年も占われる人がたくさん来ましたか。

竹村さん ええ、占いは、好、不況に無関係なんです。好況だと、もっとお金をもうけようと。鑑定料が安くみえてね。今年みたいに不況だと、慎重にしようということで。例えば、人事に神経質になったり、ひかえている設備投資をどうしてもやらなければならないが、いいかとか。

——人事も、占いに、ですか。

竹村さん 会社オーナーなどからの「適材適所かどうか」はもちろん、人事担当者が。かたや、転勤についてが多かったですね。ある流通産業の社員は、遠隔地に出す支店に派遣される。客観情勢からみて、業績は絶対上がらない。それでもサラリーマンとしてはバッテンになるだろう。し

かも経費がないので単身赴任、家に帰る費用は一年に二回分しかくれない。女房はヒステリーをおこしている。会社を変わるか、どうしたらいいか。

——今年の特徴は。

竹村さん 株もですね。それももうけているが、税務署に目をつけられないかなんて。土地もでました。以前は、この土地で商売したらもうかるか、だっ

たが、今年は、投資としてどうかに変わりました。証券会社の口車にのって損した人が泣き込んできたりもして。

——深刻な依頼も。

竹村さん 円高だが、これから円安にならないか、も。一方で、恋愛、結婚、赤ちゃんの命名など、おめでたいことは相変わらず。しかし、たしかに今年は、人生の転機についてや、しくてやっていけない、占って欲しい、などが多かった。社会情勢の激変に直撃されてるんですね。

——どんな人が来ますか？

竹村さん ええ。でも来年は占いより、宗教の年かもしれません。

（報道部・森田王作）

中高年の男性が多かった。弁護士、計理士などにも相談、そして占い師にもと。鑑定結果を参考資料に上手に使いますね。頭が柔軟なんです。会社社長などがたくさん常連にいらっしゃいます。それに今は若い女性が増えました。気楽にきて、鑑定料もポンと払う。しかも若い人の方が信じますね。

——来年はどんな年？

竹村さん 難しい年、経済的にも苦しい年。慎重に動く年です。アメリカ、自民党も難しい。しかし、今年も同じでしたが乗り切った。来年も乗り切るでしょう。

——占われにくる人はやはり多い？

竹村さん ええ。でも来年は占いより、宗教の年かもしれません。

（報道部・森田王作）

どうかい人様様